

小児慢性肝疾患実態調査の 方法に関する研究

(分担研究：小児肝疾患に関する研究)

衛藤 隆

要約：わが国において小児の主要な慢性肝疾患患者がどの程度存在し、病院における診療の実状は如何であるかを把握するための全国調査のための基礎的検討を行った。厚生省編：病院要覧によれば、一般病院における小児科を開設している病院は全体の43%あり、これを1/10抽出すると、全国で523施設となる。調査対象とする疾患の案としては、ウイルス肝炎、肝硬変、胆汁うっ滞、ビリルビン代謝異常、肝腫瘍、肝臓癌等を考えた。

見出し語：小児慢性疾患、肝疾患、胆道疾患、全国調査、
調査方法

【目的】

わが国における小児の主要な慢性肝疾患の有病率 Prevalence を推定するための調査方法について検討する。

- ② この結果をみて抽出方法、抽出率を決める
- ③ 調査の対象となる標本の大きさ(病院数)を決める。

2. 調査項目の検討

- ① 対象とする慢性肝疾患の種類を検討する。
- ② 調査対象期間を検討する。

【方法と検討項目】

1. 調査対象の選出方法

- ① 厚生省健康政策局総務課編：病院要覧1989年版(医学書院)を用い、全国の病院(一般病院、精神病院、結核病院、らい病院、伝染病院)のうち、診療科目「小児科」を開設する一般病院を一般病床規模別に各都道府県毎に調べる。

3. 調査の実施方法に関する検討

【結果】

1. 調査対象の選出方法

全国の一般病院8749施設について昭和62年10月1日現在の一般病床規模別の小児科開設病院数を調べてみると、99床以下1435施設、100～199床

表1 全国一般病床規模別小児科開設病院
抽出標本数 (切上げ1/10抽出)

都道府県	～99床	100-199床	200-299床	300-399床	400-499床	500床～	合計
北海道	12	7	3	3	2	2	29
青森	2	2	1	1	1	1	8
岩手	2	2	2	1	1	1	9
宮城	3	2	1	1	1	1	9
秋田	1	1	1	1	1	1	6
山形	2	1	1	1	1	1	7
福島	4	3	2	1	1	1	12
茨城	7	3	2	1	1	1	15
栃木	2	2	1	1	1	1	8
群馬	2	2	1	1	1	1	8
埼玉	9	5	3	1	1	1	20
千葉	7	4	3	1	1	1	17
東京	11	9	5	3	2	3	33
神奈川	7	5	3	2	2	2	21
新潟	1	3	2	1	1	1	9
富山	2	1	1	1	1	1	7
石川	2	2	1	1	1	1	8
福井	3	1	1	1	0	1	7
山梨	1	2	1	1	0	1	6
長野	4	3	1	2	1	1	12
岐阜	4	2	2	1	1	1	11
静岡	2	2	1	1	1	2	9
愛知	8	4	3	3	1	2	21
三重	2	1	2	1	1	1	8
滋賀	1	1	1	1	1	1	6
京都	4	3	2	1	1	1	12
大阪	8	7	5	4	2	3	29
兵庫	3	4	3	2	1	1	14
奈良	1	1	1	1	1	1	6
和歌山	2	1	1	1	0	1	6
鳥取	1	1	1	1	1	1	6
島根	1	1	1	1	1	1	6
岡山	2	2	2	1	1	1	9
広島	3	3	2	1	1	1	11
山口	2	2	1	1	1	1	8
徳島	3	1	1	1	1	1	8
香川	2	1	1	1	0	1	6
愛媛	3	2	1	1	1	1	9
高知	3	2	1	1	1	1	9
福岡	4	4	3	1	1	2	15
佐賀	2	1	1	1	1	1	7
長崎	4	2	1	1	1	1	10
熊本	3	3	1	1	1	1	10
大分	2	2	1	1	0	1	7
宮崎	5	1	1	1	1	1	10
鹿児島	5	2	1	1	1	1	11
沖縄	2	2	1	1	1	1	8
全国	166	118	78	59	46	56	523

資料： 厚生省健康政策局総務課編： 病院要覧 1989年版 (医学書院)

床978施設、200～299床556施設、300～399床347施設、400～499床175施設、500床以上269施設、合計3760施設（43％）に認められた。

上記の一般病床規模別のグループ毎に切上げによる1/10抽出を行うと、表1に示すように、全国で523施設を選び出すという結果が得られる。この表では都道府県毎の各病床規模別の標本数（病院数）も示されている。

2. 対象とする慢性肝疾患の種類の検討

小児慢性肝疾患実態調査の対象とする疾患の種類の案を表2に示す。

表2 対象とする小児慢性肝疾患（案）

ウイルス肝炎
B型慢性肝炎、C型慢性肝炎（輸血後非B型慢性肝炎）
肝硬変
胆汁うっ滞
胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、新生児肝炎症候群、肝内胆管減少症（Alagille症候群）、進行性肝内胆汁うっ滞症（Byler病）、その他の特発性慢性肝内胆汁うっ滞
ビリルビン代謝異常
Crigler-Najjar症候群（I型およびII型）、Gilbert症候群、Lucey-Driscoll症候群、Dubin-Johnson症候群、Rotor病
肝腫瘍
肝芽腫、肝細胞癌、その他の肝腫瘍
肝臓病
その他

【考察】

日本全国における小児の慢性肝疾患患者がどの程度存在し、その受療状況を把握するために全国の一般病院について上述のような方法にて対象施設を抽出すれば、調査可能な規模であり、目的とする概況の把握も可能と思われる。慢性疾患患者は当該疾患を専門とする施設に集中する傾向があるので、抽出に際しては、無作為に行わず日本小児科学会、日本小児科医会等で把握している資料を参考に病院を選ぶことも一法と思われる。この場合、効率よく慢性肝疾患患者の情報が集められる可能性もあるが、他方代表性に関する疑義も残る。

小児の慢性肝疾患の中には小児外科や一般外科にて診療を行っている場合もあると思われ、これらの診療科に対しても調査を行う必要があるかも知れない。この場合、一つの施設内での重複を避ける工夫が必要となろう。

以上のほか、調査表をはじめ調査の具体的実施方法、実施に伴い必要となる経費や人員の見積り、調査結果の分析方法と評価方法の検討などがさらに必要である。

【文献】

1. 厚生省健康政策局総務課編：病院要覧1989年版、医学書院、東京、1989。

A Method and Sampling for the Investigation
of Chronic Hepatobiliary Diseases
in Children in Japan

Takashi Eto, M.D.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:わが国において小児の主要な慢性肝疾患患者がどの程度存在し、病院における診療の実状は如何であるかを把握するための全国調査のための基礎的検討を行った.厚生省編:病院要覧によれば、一般病院における小児科を開設している病院は全体の 43%あり、これを 1/10 抽出すると、全国で 523 施設となる。調査対象とする疾患の案としては、ウイルス肝炎、肝硬変、胆汁うっ滞、ビリルビン代謝異常、肝腫瘍、肝膿瘍等を考えた。